

京都消防のあらまし

◎ 統一スローガン



◎ 市民の実践事項

- ① 火災に早く気付いて命を守るために住宅用火災警報器を設置しましょう。
- ② 地域の自主防災活動に進んで参加しましょう。
- ③ 普段から家庭や地域で防災について話し合い、「地域の集合場所」を確認しましょう。
- ④ お年寄りや身体の不自由な方などを、地域ぐるみで災害から守りましょう。
- ⑤ 「放火防止五カ条」を実践しましょう。

「放火防止五カ条」

- ・家の周りには、燃えやすい物を置かないようにしましょう。
- ・夜間、建物の周囲や駐車場は、照明を点灯して明るくしましょう。
- ・空き家、物置にはカギをかけましょう。
- ・車やバイクなどのボディカバーは、燃えにくいものを使いましょう。
- ・地域ぐるみで放火防止に取り組みましょう。

- ⑥ 身近な地域で防火見回り活動に取り組みましょう。
- ⑦ 火災を出さないために、次のことを実践しましょう。
 - ・寝たばこはやめ、吸い殻は確実に消しましょう。
 - ・電気ストーブなどの暖房器具は正しく使いましょう。
 - ・天ぷらを揚げているときは、その場を離れないようにしましょう。
 - ・電気器具を正しく使い、電気プラグをこまめに掃除しましょう。
- ⑧ いざというときに大切な命を守るように、応急手当の方法を身に着けましょう。
- ⑨ 身近な地域にある文化財を災害から守る訓練に参加し、協力体制を築きましょう。

京 都 市 の 概 況

京都市は、日本のほぼ中央部の内陸に位置し、京都府の南部に当たる山城盆地の北部を占め、東、北、西の三方を山に囲まれた盆地に市街地を形成しており、市内を鴨川と桂川が貫流しています。

市域は、北山の奥深くまで伸びていますが、山林原野が広く、市街地の占める割合は市域面積の約18%となっています。気候的には、夏は蒸し暑く、冬は底冷えするといった季節による寒暑の差や、昼夜の気温差が大きく、盆地特有の気候となっています。



本市が誕生したのは、わが国において市政が施行された明治22年になります。当時の市域は上京区、下京区の2区のみで面積は29.77km²、人口は約35万人でした。その後、周辺地域の編入を重ね、昭和30年には人口が120万人を超え、昭和31年9月に政令指定都市へと移行しました。昭和51年には、東山区と右京区の分区により山科区と西京区が設置され、現在の11区制となりました。平成17年4月に北桑田郡京北町を編入し、現在の市域(面積827.90km²、人口147万人)となっています。

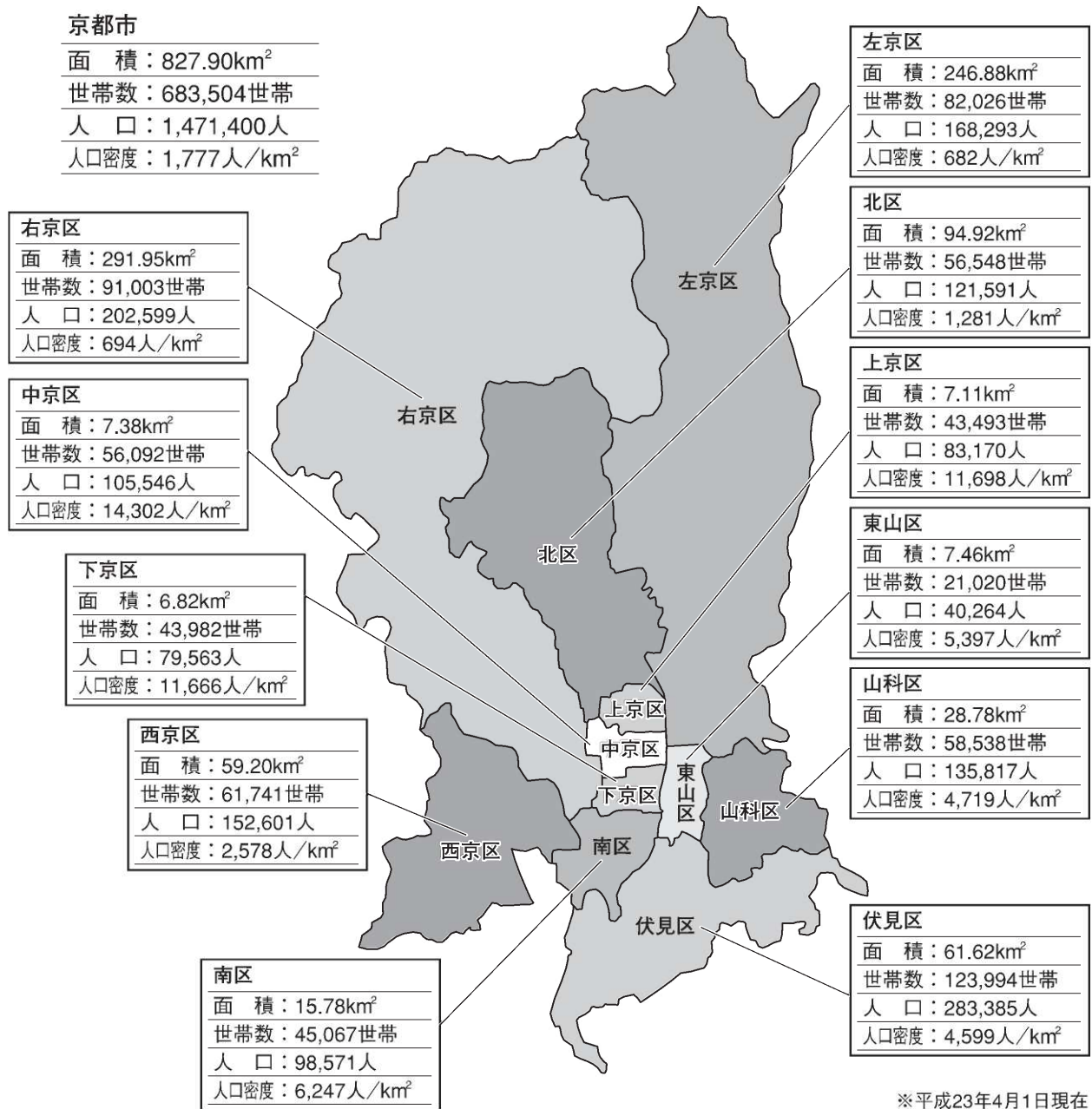
西暦794年に平安京が建都されて以来、歴史的な発展を背景に、本市は西陣織や京友禅、京焼・清水焼などに代表される数多くの伝統産業のほか、多くの分野において独創的な産業が発達し、国内有数の「ものづくり都市」として発展してきました。近年は先端技術の導入やベンチャー企業による新しい産業分野への開拓が積極的に進められています。

一方、1200年を超える悠久の歴史に育まれた世界に誇る歴史と文化を有する「文化首都」として、高い学術研究機能を有する都市であるとともに、世界遺産をはじめ数多くの文化財が、山紫水明と称えられる美しい自然と調和しながら受け継がれています。また、葵祭、祇園祭、大文字五山の送り火、時代祭など一年を通じて様々な伝統行事が催され、国内外から年間約5,000万人の観光客が訪れる国際的な文化観光都市でもあります。

本市では、昭和53年に「世界文化自由都市宣言」を行い、都市理念(都市の理想像)を明確にしました。平成11年12月には、21世紀の最初の四半世紀におけるまちづくりの基本方針として「京都市基本構想」を策定しました。また、この基本構想を具体化するため、第1期(平成13年～平成22年)の基本計画に引き続き第2期の基本計画として、平成22年12月に、平成23年度から10年間の京都の未来像と主要施策を示した「はばたけ未来へ！京プラン(京都市基本計画)」を策定し、「安らぎのある暮らし」と「華やきのあるまち」の実現に向け、市民の暮らしを守り、京都の発展に必要な政策を着実に推進しています。

平成21年1月には、平成20年度から平成23年度までの4年間を計画期間とする、「政策推進」と「行財政改革・創造」の取組が一体となった「京都未来まちづくりプラン」を策定し、京都の持つ「市民力」や「地域力」を引き出す市民との「共汗」と、行政の縦割りを排した政策・施策の「融合」により、京都ならではの新たな地域主権時代のモデルとなる取組を実践することとしております。

京都市域図



京都市市民憲章

わたくしたち京都市民は、国際文化観光都市の市民である誇りをもって、わたくしたちの京都を美しく豊かにするために、市民の守るべき規範として、ここにこの憲章を定めます。

この憲章は、わたくしたち市民が、他人に迷惑をかけないという自覚に立って、お互いに反省し、自分の行動を規律しようとするものです。

1. わたくしたち京都市民は、美しいまちをきずきましょう。
1. わたくしたち京都市民は、清潔な環境をつくりましょう。
1. わたくしたち京都市民は、良い風習をそだてましょう。
1. わたくしたち京都市民は、文化財の愛護につとめましょう。
1. わたくしたち京都市民は、旅行者をあたかくむかえましょう。

<平成23年の推進テーマ>

「市民力」、「地域力」で切り拓こう 未来の京都
～いつまでも「京都に住んでいて良かったね。」
と言えるまちを目指して～

<実践目標>

- ・「京都力」を結集して、被災された方々を支援しましょう
- ・「DO YOU KYOTO? (環境にいいことしていますか?)」を合言葉に環境にやさしい暮らしを実践しましょう
- ・みんなで支え合いながら、安心・安全に暮らせるまちをきずきましょう
- ・散乱ごみや放置自転車のない緑豊かな美しいまちにしましょう
- ・自然・景観や伝統、文化財をはじめ、世界に誇る京都の財産を大切に守り伝えましょう
- ・国内外の旅行者をおもてなしのこころで迎えましょう

平成23年度京都市消防局運営方針

運営方針骨子

1 京都消防の使命

消防職員、消防団員が市民とのパートナーシップをより一層強め、市民や地域と共に防火防災に取り組む「地域密着型の消防」と、あらゆる災害現場に的確、果敢に立ち向かうとともに、消防法令違反にき然と対処する使命感のある「力強い消防」により、「はばたけ未来へ！京プラン（京都市基本計画）」【平成23年度～32年度】に掲げる「災害に強く安心して住み続けられる『安心都市・京都』」の実現を目指します。

2 重点方針及び最重点事業

はばたけ未来へ！京プラン（京都市基本計画）

重点方針1 火災を未然に防止して市民のいのちとくらしと財産を守る予防消防の推進

★ 最重点事業

- ◎ 住宅用火災警報器の全世帯への設置
- ◎ 高齢者等の防火安全対策等の充実

重点方針2 あらゆる災害による被害を最小限に抑える消防活動体制の充実強化

★ 最重点事業

- ◎ 局・署警防本部の機能強化
- ◎ 消防救助活動能力の向上

重点方針3 市民への応急手当の普及啓発と救急体制の充実による救命効果の向上

★ 最重点事業

- ◎ 市民等に対する救命講習等の実施
- ◎ 事業所等に対するAEDの普及啓発
- ◎ 安心救急ステーションの推進

重点方針4 地域の災害対応力の向上をはじめとする防災危機管理体制の充実

★ 最重点事業

- ◎ 消防団員の確保
- ◎ 訓練等を通じた市民防災行動計画の検証及び内容の充実
- ◎ 東日本大震災を教訓とする本市の対応の検討
 - ・ 新たな視点からの自主防災組織の育成指導体制
 - ・ 通勤・通学者、観光客等の帰宅困難者対策
 - ・ 行政と市民等の情報伝達体制 等

重点方針5 未来の京都消防を担う人づくり・組織づくり

3 行財政改革の取組

取組事項

重点方針１ 火災を未然に防止して市民のいのちとくらしと財産を守る予防消防の推進

〈15取組〉

- ・住宅用火災警報器の全世帯への設置（最重点事業）
- ・高齢者等の防火安全対策等の充実（最重点事業）
- ・放火火災防止対策の推進
- ・防火見回り活動の推進
- ・特定防火対象物等の違反是正
- ・重点査察対象物の査察
- ・小規模社会福祉施設等の防火安全対策の推進
- ・認知症高齢者グループホーム等の社会福祉施設への遡及指導
- ・製造所等に対する査察
- ・地下貯蔵タンクの流出防止措置に係る遡及指導の推進
- ・文化財施設の放火火災防止対策の推進
- ・文化財レスキューリーダー研修及び訓練等による育成指導等
- ・文化財を守る支援体制の確立
- ・予防に関する知識・技能の向上
- ・調査員の能力向上

重点方針２ あらゆる災害による被害を最小限に抑える消防活動体制の充実強化

〈８取組〉

- ・局・署警防本部の機能強化（最重点事業）
- ・「大規模災害対策支援システム」「即時災害情報収集システム」等を活用した情報処理体制の整備
- ・耐震型防火水槽及び防火井戸の整備
- ・消防ヘリコプター運航体制の充実強化
- ・消防指令システムの更新整備
- ・消防救急無線デジタル化整備
- ・消防救助活動能力の向上（最重点事業）
- ・新特別消防対象物警備計画の運用開始と検証訓練の実施

重点方針 3 市民への応急手当の普及啓発と救急体制の充実による救命効果の向上

＜10取組＞

- ・市民等に対する救命講習等の実施（最重点事業）
- ・応急手当普及員の養成
- ・事業所等に対するAEDの普及啓発（最重点事業）
- ・安心救急ネット京都との連携
- ・救急事故を防ぐための知識の普及
- ・安心救急ステーションの推進（最重点事業）【新規】
- ・救急救命士の計画的養成
- ・現任救急救命士に対する処置範囲拡大への対応
- ・病院実習カリキュラムに基づく救急救命士の再教育の実施
- ・救急活動能力の向上

重点方針 4 地域の災害対応力の向上をはじめとする防災危機管理体制の充実

＜19取組＞

- ・消防団のICT利活用推進【新規】
- ・消防団用無線の配備
- ・消防団施設の耐震改修の推進
- ・消防団情報伝達体制の推進
- ・消防活動総合センターを活用した訓練の推進
- ・消防団員の確保（最重点事業）
- ・機能別分団との連携による消防防災体制の充実
- ・訓練等を通じた市民防災行動計画の検証及び内容の充実（最重点事業）
- ・体験型学習による防災担い手の育成【新規】
- ・地域ごとの土砂災害警戒区域における警戒避難体制の構築
- ・防災施策の評価手法の構築
- ・観光客、留学生、通勤通学者等に対する防災対策の検討
- ・京都学生消防サポーターの養成
- ・京都学生消防サポーターが自発的活動を展開するための支援
- ・危機管理意識の浸透
- ・危機発生時における初動対応能力の向上
- ・国民保護に係る市民啓発の推進
- ・研修やテロ災害訓練による職員対応能力の向上
- ・東日本大震災を教訓とする本市の対応の検討（最重点事業）【新規】

重点方針 5 未来の京都消防を担う人づくり・組織づくり

〈 8 取組〉

- ・ 将来を見据えた初任教育・現任教育の実施
- ・ 安全運転技能の向上
- ・ 予防に関する知識・技能の向上【再掲】
- ・ 調査員の能力向上【再掲】
- ・ 消防救助活動能力の向上【再掲】
- ・ 救急活動能力の向上【再掲】
- ・ 人材育成方針の策定及び運用
- ・ O J T 等による知識・技術の伝承

行財政改革の取組

- ・ 行政運営手法の改革
- ・ 歳出構造の見直し
- ・ 庁内の改革
- ・ 外郭団体の改革

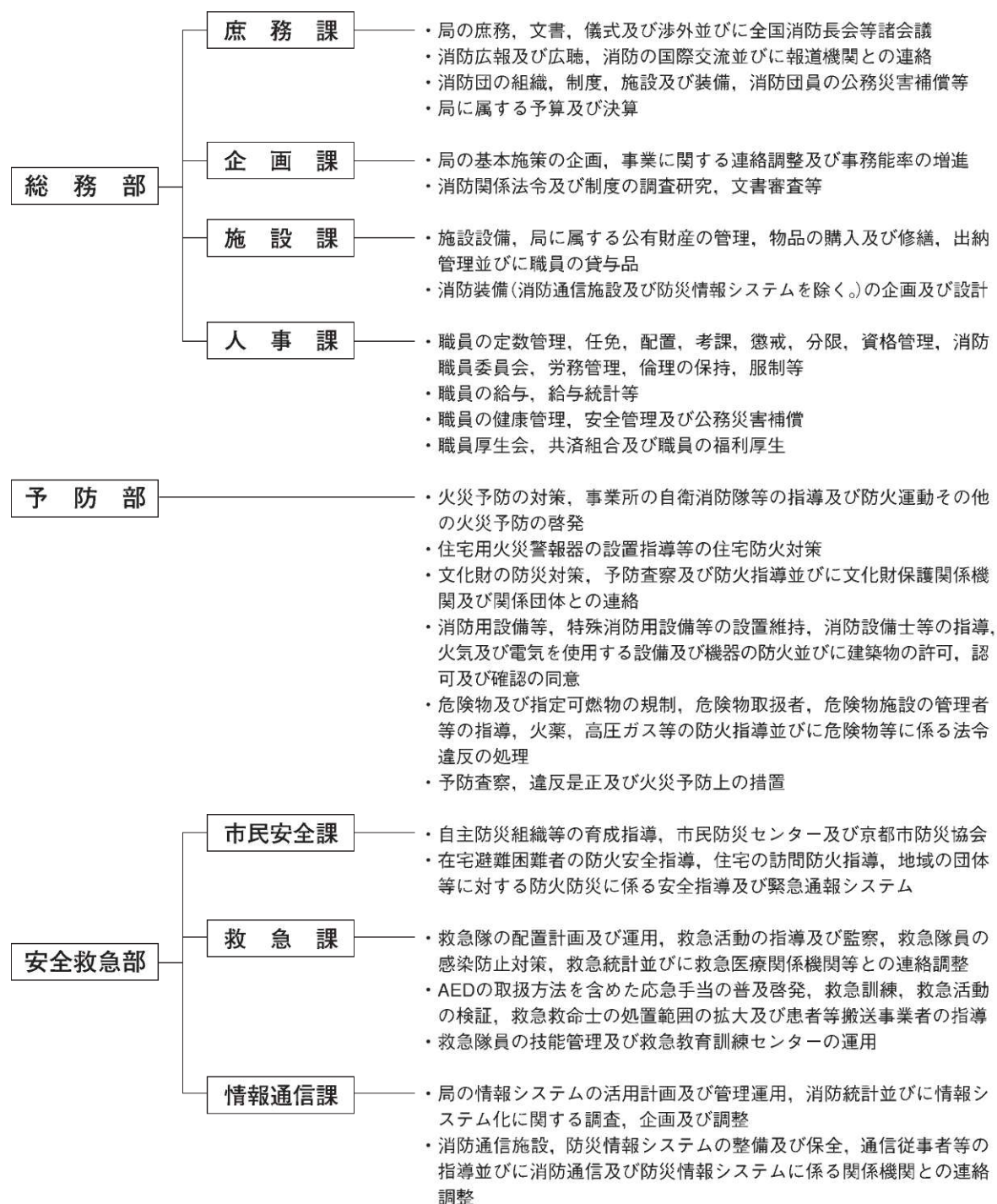
名 称	所 在 地	電 話 番 号
消 防 局 (本 部) 消 防 学 校 消防活動総合センター(管理棟) 京 都 消 防 ヘ リ ポ ー ト 救 急 教 育 訓 練 セ ン タ ー 市 民 防 災 セ ン タ ー	〒604-0931 中京区押小路通河原町西入榎木町450-2 〒601-8166 南区上鳥羽塔ノ森下開ノ内21-3 〒601-8166 南区上鳥羽塔ノ森下開ノ内94-4 〒612-8244 伏見区横大路千両松町 〒601-8445 南区西九条菅田町4-1 〒601-8445 南区西九条菅田町7	075-231-5311代 075-682-0119 075-671-2119 075-621-1834 075-662-1216 075-662-1849
北 消 防 署 大 徳 寺 消防出張所 室 町 消防出張所 中 川 消防出張所	〒603-8425 北区紫竹下緑町87 〒603-8231 北区紫野大徳寺町88 〒603-8149 北区小山上総町1-1 〒601-0122 北区中川北山町48-2	075-491-4148代 075-491-8748 075-451-7990 075-406-2311
上 京 消 防 署 大 宮 消防出張所 北 野 消防出張所	〒602-8031 上京区釜座通下立売下る東裏辻町398 〒602-8441 上京区大宮通今出川上る観世町110 〒602-8384 上京区今小路通御前西入紙屋川町870	075-431-1371代 075-441-1510 075-465-0119
左 京 消 防 署 岡 崎 消防出張所 鹿ヶ谷 消防出張所 岩 倉 消防出張所 修 学 院 消防出張所 大 原 消防出張所 鞍 馬 消防出張所 花 背 消防吏員駐在所	〒606-8211 左京区田中西大久保町36 〒606-8344 左京区岡崎円勝寺町23-1 〒606-8447 左京区鹿ヶ谷上宮ノ前町37 〒606-0015 左京区岩倉幡枝町1204 〒606-8081 左京区修学院大林町13-8 〒601-1244 左京区大原上野町564-3 〒601-1112 左京区鞍馬貴船町5-2 〒601-1103 左京区花脊八樹町1-1	075-723-0119代 075-771-3195 075-771-0105 075-701-3000 075-781-0119 075-744-2249 075-741-2990 075-746-0062
中 京 消 防 署 寺 町 消防出張所 四 条 消防出張所 西 大 路 消防出張所	〒604-8265 中京区西堀川通御池下る西三坊堀川町521 〒604-0931 中京区押小路通寺町東入榎木町101 〒604-8854 中京区壬生仙念町30 〒604-8437 中京区西ノ京東中合町45	075-841-6333代 075-222-1546 075-841-2838 075-841-0243
東 山 消 防 署 泉 涌 寺 消防出張所	〒605-0862 東山区清水五丁目130-8 〒605-0974 東山区泉涌寺五葉ノ辻町13-2	075-541-0191代 075-561-1330
山 科 消 防 署 勸 修 寺 消防出張所 大 塚 消防出張所	〒607-8341 山科区西野今屋敷町2-10 〒607-8226 山科区勸修寺仁王堂町27-6 〒607-8134 山科区大塚北溝町23-1	075-592-9755代 075-573-0119 075-595-0240
下 京 消 防 署 塩 小 路 消防出張所 中 堂 寺 消防出張所	〒600-8191 下京区五条通高倉西入堺町27 〒600-8207 下京区上之町13 〒600-8812 下京区中堂寺北町71	075-361-4411代 075-351-1045 075-802-6529
南 消 防 署 東 寺 消防出張所 吉 祥 院 消防出張所 西 八 条 消防出張所 久 世 消防出張所	〒601-8445 南区西九条菅田町4-1 〒601-8473 南区大宮通九条大路上る九条町889 〒601-8327 南区吉祥院御池町6 〒601-8302 南区吉祥院西ノ庄淵ノ西町42 〒601-8213 南区久世中久世町二丁目129-2	075-681-0711代 075-691-0327 075-691-5220 075-313-0402 075-932-1873
右 京 消 防 署 嵯 峨 消防出張所 梅 津 消防出張所 御 室 消防出張所 京 北 消防出張所	〒616-8162 右京区太秦峰岡町36 〒616-8366 右京区嵯峨天龍寺今堀町1 〒615-0906 右京区梅津高畝町46 〒616-8092 右京区御室大内35 〒601-0533 右京区京北下中町勝山田8	075-871-0119代 075-861-0722 075-861-0900 075-462-3131 0771-54-0119
西 京 消 防 署 桂 消防出張所 松 尾 消防出張所 洛 西 消防出張所	〒615-8186 西京区榎原佃19 〒615-8026 西京区桂市ノ前町12 〒615-8281 西京区松尾木ノ曽町59-6 〒610-1142 西京区大枝東新林町二丁目4	075-392-6071代 075-381-2370 075-391-3584 075-332-0683
伏 見 消 防 署 醍 醐 消 防 分 署 南 浜 消防出張所 淀 消防出張所 山 ノ 下 消防出張所 神 川 消防出張所 向 島 消防出張所	〒612-8422 伏見区竹田七瀬川町9-1 〒601-1366 伏見区醍醐大構町28 〒612-8045 伏見区南浜町273-2 〒613-0904 伏見区淀池上町197 〒612-8002 伏見区桃山町山ノ下44-5 〒612-8495 伏見区久我森の宮町14-27 〒612-8136 伏見区向島四ツ谷池7-10	075-641-5355代 075-571-0474代 075-611-2165 075-631-2434 075-601-8999 075-922-7777 075-622-3754

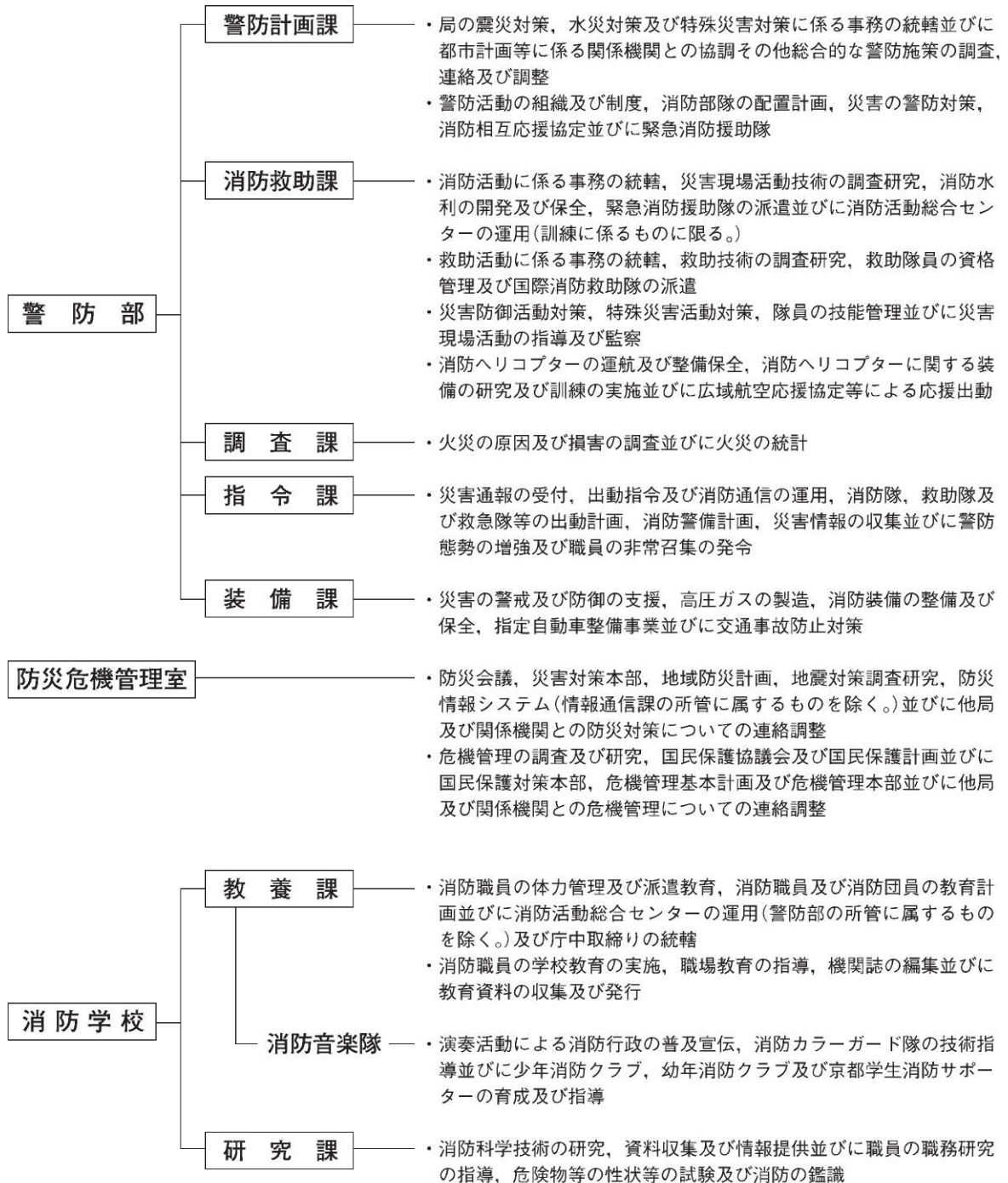
消防局の機構と事務分掌

職員の現況（平成23年4月1日現在）

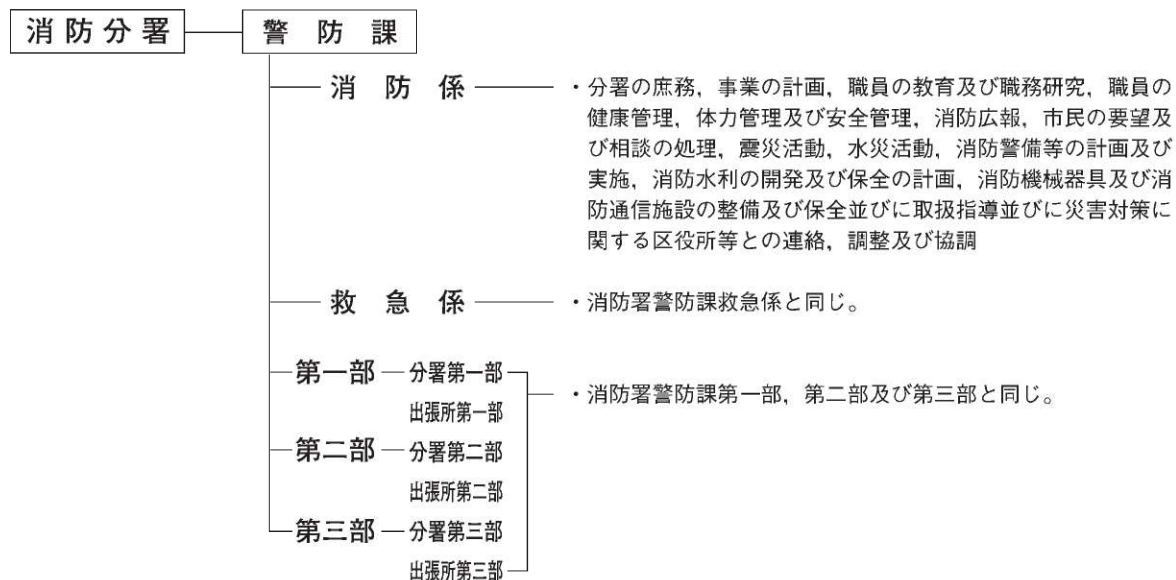
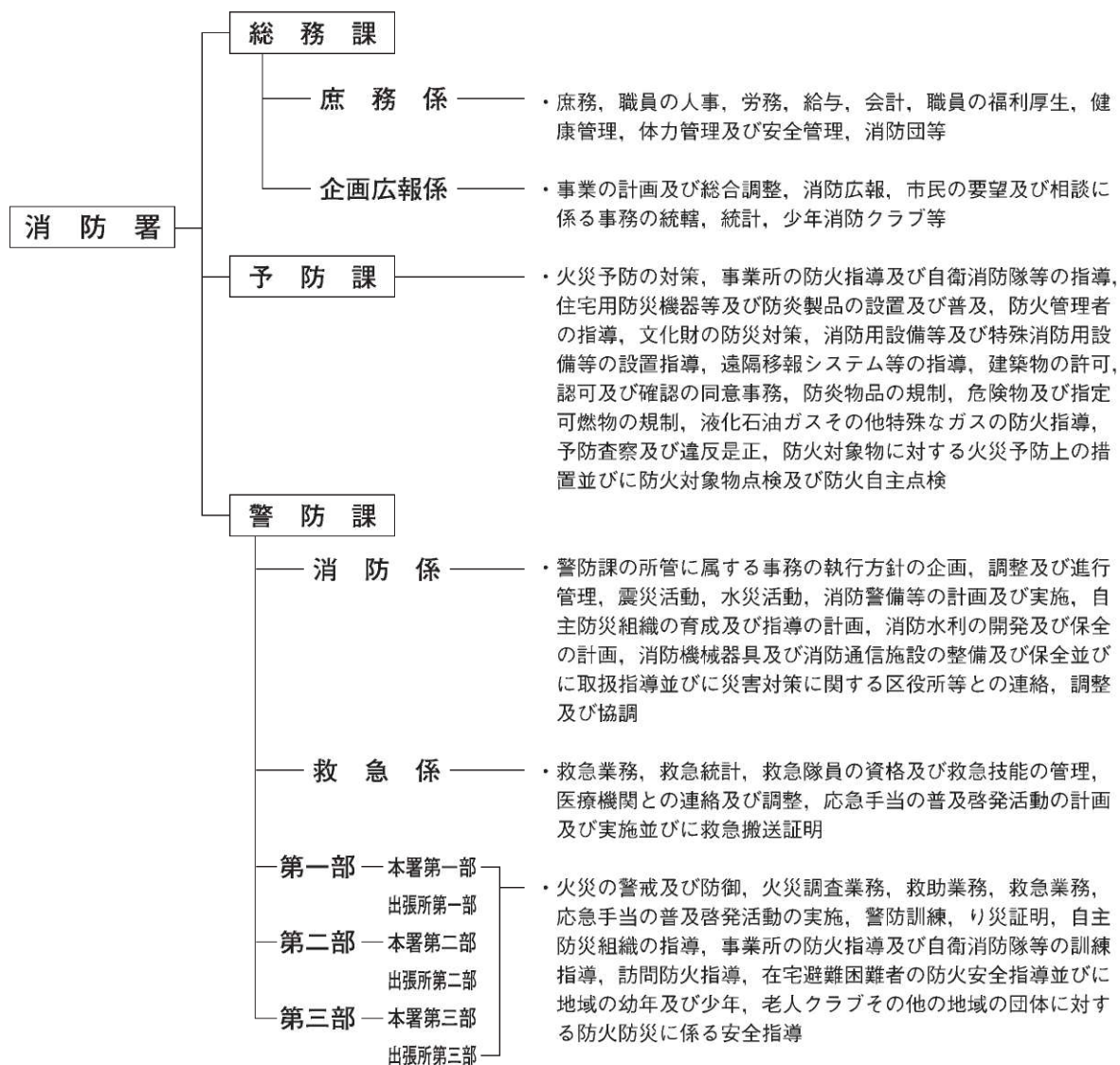
定員	1,898人（初任教育生50名を除く。）	平均勤続年数	20年 2 ヶ月
現在員	1,838人（初任教育生50名を除く。）	平均年齢	42年 9 ヶ月

消防局（本部） 4 部， 1 室， 1 校， 14 課





消 防 署 (11 署・1 分署)



消 防 予 算 の 現 況

予 算 の 概 要

平成23年度の京都市の予算は、厳しい財政状況の中で必要な施策を推進するため、財政改革有識者会議の提言を踏まえ、各局区長のマネジメントを活かした戦略的予算編成システムの利点を生かしながら、縦割りではない局横断的・全市的観点での、新たな予算編成システムを構築し、市民生活の安心安全をしっかりと支えつつ、夢と希望に満ちた未来への展望を切り拓くことを基本に据え、「京都未来まちづくりプラン」の総仕上げと「はばたけ未来へ！京プラン」の力強いスタートダッシュを切る予算として編成されました。

消防局予算においては、行財政改革・創造プランに基づき、最小限の経費で最大限の効果が得られるよう、また、「地域密着型」をフルに活用した事業構築を行うという考え方を基に編成を行い、主に次の事務事業を計上しました。

まず、消防防災通信ネットワークの構築として、平成28年5月末までにデジタル化への移行が義務付けられている消防救急無線の整備について、実施設計を行います。さらに、運用開始から10年以上が経過し、更新時期を迎えている消防指令センターについても、より効率的な整備を行うため、消防救急無線のデジタル化実施設計と併せて実施設計を行います。また、応急手当の普及啓発では、安心救急ステーション(仮称)等の応急救護拠点づくりの推進を図ります。

次に、消防団の充実として、主に若年層をターゲットにした消防団1日入団体験プログラムを実施し、消防団の活動内容を市民の方にご理解いただくことで、更なる消防団への入団促進を図るほか、消防団の情報伝達等を強化するためインターネット回線に接続可能な情報処理端末を整備し、各消防分団間の情報共有等を図ります。

そして、防災危機管理対策を推進するため、引き続き、地域防災計画の推進及び大規模災害用備蓄器材等整備を行うとともに、自主防災組織の災害対応力を向上させるため、新たな防災知識を習得する手法として、京都市の地域特性に対応するよう改良した災害対応カードゲームや、災害図上訓練などを用いた、体験型研修による地域の防災担い手育成事業に取り組めます。

また、職員提案予算事業として二つの事業を計上しています。まず、訓練用パッケージ型消火設備を製作し、実際に放射を伴う訓練を容易に実施可能とすることで、火災の際の有効な活動に活かします。次に、ポータブル電気火災実験器を製作し、実験を通じて市民の方に身近に電気火災のメカニズムをご理解いただくことで、火災予防の更なる推進を図ります。

予 算 の 規 模

平成23年度消防局予算は、総額232億8千万円を計上し、前年度の当初予算と比較すると、10億35百万円の減(△4.3%)となっています。

予算が減少した主な要因は、給与改定等による給与費の減少や、文化財とその周辺を防災水利整備事業、塩小路消防出張所、大原消防出張所整備などの事業が終了したことによる投資的経費の減少などが挙げられます。

(平成23年4月1日)

区 分	23年度予算額	前年度予算額	対 前 年 度 比 較	
			増 減 額	増 減 率
市 一 般 会 計 総 額 (A)	746,475,000 ^{千円}	768,651,000 ^{千円}	△22,176,000 ^{千円}	△2.9 [%]
消 防 費 総 額 (B)	23,280,000	24,315,000	△1,035,000	△4.3
一般会計と消防費の割合 (B)／(A)	3.1%	3.2%	—	—

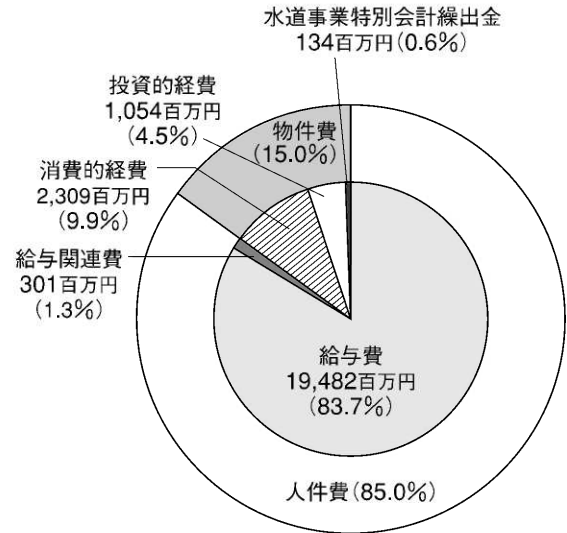
消防費歳出予算性質別内訳

人件費 (85.0%)

給与費	19,482百万円
給与関連費	301百万円

物件費 (15.0%)

消費的経費	2,309百万円
投資的経費	1,054百万円
水道事業特別会計繰出金	134百万円



消防費歳出予算費目内訳

(平成23年4月1日)

款	項 目		23年度予算額	前年度予算額	対前年度比較	
					増 減 額	増 減 率
消防費	消防総務費	消防総務費	19,881,000 ^{千円}	20,352,900 ^{千円}	△471,900 ^{千円}	△2.3%
	消防費	常備消防費	1,522,243	1,563,534	△41,291	△2.6
		消防団費	595,000	663,650	△68,650	△10.3
		水道事業特別会計繰出金	134,157	146,316	△12,159	△8.3
	防災費	防災費	58,600	74,600	△16,000	△21.4
	消防施設整備費	消防施設整備費	1,089,000	1,514,000	△425,000	△28.1
会 計			23,280,000	24,315,000	△1,035,000	△4.3

消防費当初予算の推移

年度	当初予算額	特 定 財 源			一般財源	地 方 交 付 税	
		国府支出金	市 債	その他		基準財政需要額	単位費用
19	30,916,000 ^{千円}	23,000 ^{千円}	6,143,000 ^{千円}	333,000 ^{千円}	24,417,000 ^{千円}	17,591,543 ^{千円}	10,500 ^円
20	30,077,000	20,500	4,937,000	337,500	24,782,000	17,587,117	10,600
21	25,580,000	33,000	1,705,000	993,220	22,848,780	17,439,642	11,000
22	24,315,000	21,000	1,426,000	447,000	22,421,000	18,277,609	11,400
23	23,280,000	13,500	962,000	364,500	21,940,000	—	11,200

主な事務事業

事 務 事 業 名	概 要	予 算 額
消防水利整備	震災消防水利整備計画に基づき整備 ・耐震型防火水槽 40m ³ 3 基 ・耐震型防火水槽 60m ³ 2 基 ・耐震型防火水槽 100m ³ 7 基 ・防火井戸 3 基	千円 216,800
消防車両整備	ポンプ車(1台)、はしご車(1台)、水槽車(1台)、救急車(4台)ほか	285,300
消防防災通信ネットワークの構築	消防救急無線デジタル化整備及び消防指令センター整備	95,000
救急高度化事業	○救急教育訓練センターにおける救急救命士の養成 ○メディカルコントロール体制の充実 ○応急手当の普及啓発	108,000
予防対策	○緊急通報システムと連動した住宅用火災警報器整備事業 ○予防消防推進 ・訓練用パッケージ型消火設備の製作 ・ポータブル電気火災実験器の製作 ○文化財防火対策	68,100
消防団の充実	○消防団の ICT 化推進モデル事業 ○消防団 1 日入団体験プログラム ○消防団活動連絡体制整備	99,500
防災危機管理対策の充実	○京都市地域防災計画の推進 ○大規模災害用備蓄器材等整備 ○危機管理対策	56,500
自主防災組織の災害対応力の充実	○市民防災行動計画の推進 ○自主防災組織の育成指導 ・体験型研修による防災担い手育成事業 ・京都学生消防サポーターの充実 ・自主防災組織活動助成	21,900

消防団の現況

京都市の消防団は、各行政区に設けられた11の消防団とおおむね学区単位に設けられた205の消防分団、また、特定の活動のみを行う機甲分団、応急救護分団をもって組織しています。

消防団は、消防局との力強い連携により、火災、震災その他の非常災害時における警戒防御活動を行うとともに、市民の防火・防災に対する意識と対応力を高めるため、昼夜を分かたず活動しています。

消防団のあゆみ

江戸時代、京都には、主に禁裏(御所)の防衛に当たっていた「常火消し」と各町で組織されていた「町方火消し」があったといわれています。この「町方火消し」が明治9年に「消防組」、昭和13年ごろから「警防団」に改組され、昭和23年に「消防団」となって今日に至っています。

このように、京都市の消防団は、その前身となる町方火消しが誕生してから300年余りの長い歴史と輝かしい伝統に支えられています。

消防団の組織

消防団は、消防団本部と分団で組織されています。

消防団の階級

市長から任命された消防団長は、市長の承認を得て消防団員を任命します。消防団員は、団長・副団長・分団長・副分団長・部長・班長・団員の7つの階級に分けられ、災害現場活動等での指揮命令系統が明確にされています。

■ 消防団本部

消防署に設置され、団長と総務・予防・警防・教育を担当する副団長で構成されています。

■ 消防分団

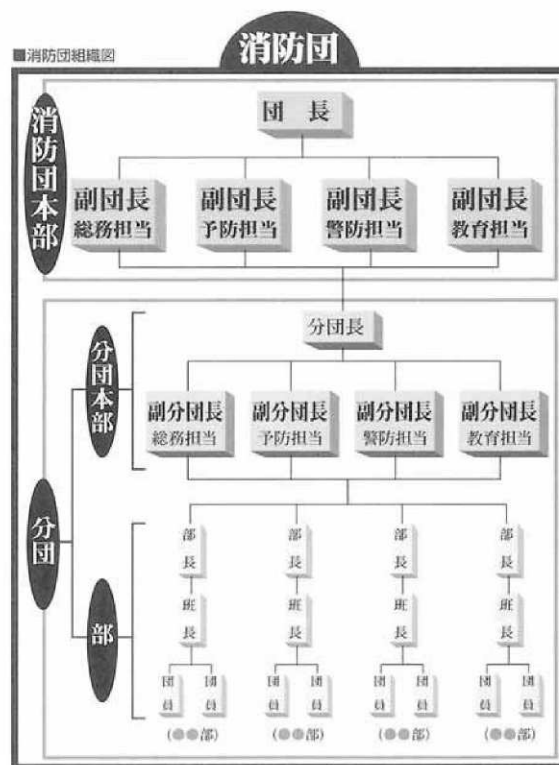
分団本部と部によって組織され、分団本部は分団長1名と総務・予防・警防・教育を担当する4名の副分団長で構成されています。部は、各分団の地域事情に応じて編成され、それぞれの担当地域で部長を中心に市民指導や情報収集、広報活動などを行っています。

■ 機甲分団

平成21年11月に中京消防団に創設され、分団長と分団員で構成されています。クレーン車などを所有する事業所の従業員が、大規模な地震や土砂崩れ等が発生した場合に、重機を活用した人命救助に特化した活動を行います。

■ 応急救護分団

平成22年3月に各消防団に創設され、分団長と分団員で構成されています。応急手当の普及啓発及び大規模な事故が発生した場合の救護活動に特化した活動を行っています。



平常時の活動

地域の防火・防災リーダーとして、自主防災組織など地域住民の災害対応力を向上させるために指導や訓練を行うとともに、地域の訪問防火指導や巡回パトロール、応急手当の普及啓発等を実施しています。

災害時の活動

■ 火災現場活動

火災現場では、警戒区域の設定と群衆整理、人命救助と避難誘導、物件の搬出と保護、飛び火の警戒、消火活動の支援、鎮火後の警戒などを行います。また、火災の状況により、配置器材を活用した消火活動を行って早期鎮圧を図り、消防隊と協力して活動を行います。

■ 震災その他の非常災害時の活動

阪神・淡路大震災を契機に市内の全消防分団に配置した小型動力ポンプや救助器材などの装備を活用して、震災その他の大規模な災害時に消火活動や救助活動などを行います。

消防団現状（平成23年4月1日現在）

■ 消防団員数

定 員 4,970名

現在員 4,330名（うち女性320名）

団 名	分団数	団 員 数
北	20	395
上 京	18	263
左 京	28	649
中 京	25	436
東 山	12	198
山 科	14	231
下 京	24	332
南	13	292
右 京	25	649
西 京	16	338
伏 見	22	547
計	217	4,330

■ 小型動力ポンプ等の配備状況

小型動力ポンプ 252台

小型動力ポンプ付積載車 37台

ポンプ車 6台



消防団の充実強化

地域防災の要である消防団の一層の充実強化を進めるとともに、消防団活動への市民理解の促進と消防団員の確保を図るため、次のような事業を展開しています。

■ 消防団活動の強化

消防活動総合センターを活用した実戦的な訓練の実施

■ 消防団活動装備品等の充実

■ 消防団活動の紹介及び消防団員募集活動の実施

（京都市消防局インターネットホームページ <http://www.city.kyoto.lg.jp/shobo/index.html>）

学生のデザインによる消防団員募集ポスターの作成

消防団 1 日体験入団の実施

■ 資格取得の推進



消防団エンブレム

消防の広報・広聴活動

市民の皆様とともに、消防防災行政を効果的に推進するため、日ごろから「市民の声に」耳を傾けるとともに、市民の皆様が知りたい情報、暮らしの安全確保に役立つ情報などをタイムリーに提供して、消防防災行政への理解と協力が得られるよう、積極的な広報・広聴活動を実施しています。

主な広報活動

■ 市民しんぶんや報道機関等を通じた広報

各種事業や防火・防災行事等について、

市民しんぶんへの掲載や、市政記者クラブ等を通じた新聞・テレビ等の報道機関への広報発表を行っています。

主な広報発表の状況

(平成22年度中)

項目	情報提供	取材協力	市政番組	市 民 し ん ぶ ん	業 界 紙 (誌)
情報件数	251	84	47	151	38

■ 印刷物やビデオ等を通じた広報

防火運動の推進や防災知識の普及啓発等を積極的に行うため、消防局や消防署でポスター、ビラ、リーフレット等の印刷物を作成し、防火・防災行事など様々な機会に活用しています。また、消防を紹介するオリジナルビデオや、写真・イラストによる広報パネル等を作成して、消防署や市民防災センター等で上映、展示し、広く市民の皆様には防火・防災を呼び掛けています。

■ インターネットによる情報発信

インターネットが身近になる中、平成9年7月から消防局ホームページを開設し、防火・防災情報の発信を行っています。平成19年11月には、市民の皆様にとってさらに使いやすく見やすいものとするため、ホームページを一新しました。音声読上げ、文字拡大、配色変更などの機能を有し、高齢者や障害のある方々にも使いやすいように更なる充実を図り、消防・防災情報をあらゆる市民の方々への的確に発信するよう努めています。

■ 国際交流・視察研修等

国内外の行政機関関係者などによる、消防活動総合センターや消防指令センターなどの消防庁舎、機械器具、組織運営等についての視察研修を受け入れ、消防防災業務をわかりやすく説明し、消防への理解と認識が深まるよう努めています。

内外の行政機関等の視察研修 (平成22年度中)

種 別	国際交流	消防関係者	行政関係者	合 計
回 数	10	35	9	54
延べ人数	54	240	66	360

主な広聴活動

平成22年度中に「市長への手紙」をはじめ、消防の相談電話やEメール、防火防災指導等を通じて市民の皆様から寄せられた要望や苦情、問合せ等の件数は約5,400件で、1日当たり約15件の「市民の声」が寄せられたことになります。「消防の相談電話」では、診療可能な医療機関の問合せが約9割を占めています。

消防の相談電話

(平成22年度中)

内 容	声 の 種 別							計
	苦情	要望	意見	相談	問合せ	感謝	その他	
総 務	1	0	0	4	637	0	0	642
予 防	1	4	0	10	109	0	0	124
警 防	7	1	3	7	80	1	0	99
救 急	5	1	0	24	1,832	3	2	1,867
防 災	0	1	1	0	11	1	0	14
消防団	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	1	0	0	4	23	0	1	29
合 計	15	7	4	49	2,692	5	3	2,775

消防情報

(平成22年度中)

内 容	声 の 種 別							計
	苦情	要望	意見	相談	問合せ	感謝	その他	
総 務	2	4	0	0	2	4	1	13
予 防	16	551	10	228	85	8	56	954
警 防	22	233	7	77	56	14	62	471
救 急	22	26	6	11	28	168	8	269
防 災	4	36	4	27	16	6	22	115
消防団	3	3	0	3	2	1	8	20
その他	11	111	4	63	36	31	55	311
合 計	80	964	31	409	225	232	212	2,153